

デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議

2024年8月
内閣官房デジタル行財政改革会議事務局

デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議 (釜石場所)

時間	内容
15:30~15:50	デジタル行財政改革会議スタートアップ連携実務者会議の趣旨説明 ・ 内閣官房デジタル行財政改革会議事務局 参事官 小林剛也
15:50~16:50	座談会 「輝く地域に向けた地域とデジタル、スタートアップの関係とは？」 ・ 平尾 清 様(岩手大学地域協創教育センター 特任教授) ・ 手塚 さや香 様(複業フリーランス) ・ 鹿野 順一 様(NPO法人 @リアスNPOサポートセンター 代表理事) ・ 藤原 信孝 様(釜石観光ガイド会) ・ 鱒沢 紗良 様(岩手大学学内カンパニー「+DESIGN」) ・ 小笠原 皐 様(高校生起業家)
16:50~17:20	質疑応答 (現地、オンライン併用)
17:20~17:30	議論まとめ

デジタル行財政改革におけるスタートアップ分野の考え方

- 人口減少社会において、介護、子育て、防災等といった公共サービスを維持し、社会変革と価値創造を促すことを目指すデジタル行財政改革の理念に基づけば、自治体や既存の企業等に加え、スタートアップのアイディア・機動力が不可欠。
- 他方で、これら社会課題解決分野においては、急激な成長が求められる従来のスタートアップ支援の手法には限界がある（人口減少地域のマーケット規模が小さい、公的機関等との調整が複雑、投資家からはリターンが小さいとされている 等）。
- 「スタートアップ支援全般」については、従来から様々な施策（予算、税制、金融等）が講じられてきたが、社会課題解決に向けたスタートアップの活躍環境整備については、さらなる工夫の余地が必要。

デジタル行財政改革 スタートアップ全国行脚（令和6年2月～3月）

守山



2/3参加

- 行政はリスクを取らない体質。スタートアップから話がきても組織内で上がってこないケースも。当市は連携話が来たら、迅速な対応に努めている。

沖縄



2/29参加

- 行政とスタートアップの間を調整できる人材が地域でも必要。

大阪



3/7開催 21人参加

- 関西には中間支援組織が多く存在するが、一枚岩になりきれていない。

神戸



3/8開催
18人参加

- 中間支援機関にコーディネートする役割を担っていただくことで、行政だけでは動きにくい領域もカバーできる。
- NPOや非営利事業として進めている事業について、より事業として独立できるような仕組みにしてほしい。

名古屋



3/12参加

- 3年かけてスタートアップ連携によって小さな新規事業を作っても、役員からはもっと大きな事業を目指せ、と言われてしまう。

九州



3/21開催
26人参加

- 事業価値に沿った資金調達は起業家の成長にも繋がるが、補助金・助成金の場合は要項に沿うことが目的化しているケースもある。

盛岡



3/22開催
39人参加

- ソーシャルインパクトを大きくする資本主義的手段（上場）を活用しつつ、社会性も目指す。このプレッシャーの中でサービスが磨かれ成長に繋がる。

浜松



3/25開催
34人参加

- 地元金融機関と行政とは、得意分野がそれぞれ異なる。スタートアップからきた相談や新規案件については、双方で紹介し合うことにしている。
- 地元信金が撤退したショッピングモールの地下一階を買い取り、スタートアップ企業に賃貸。現在満室。信金から9人が常駐して、SU支援に努めている。

山梨



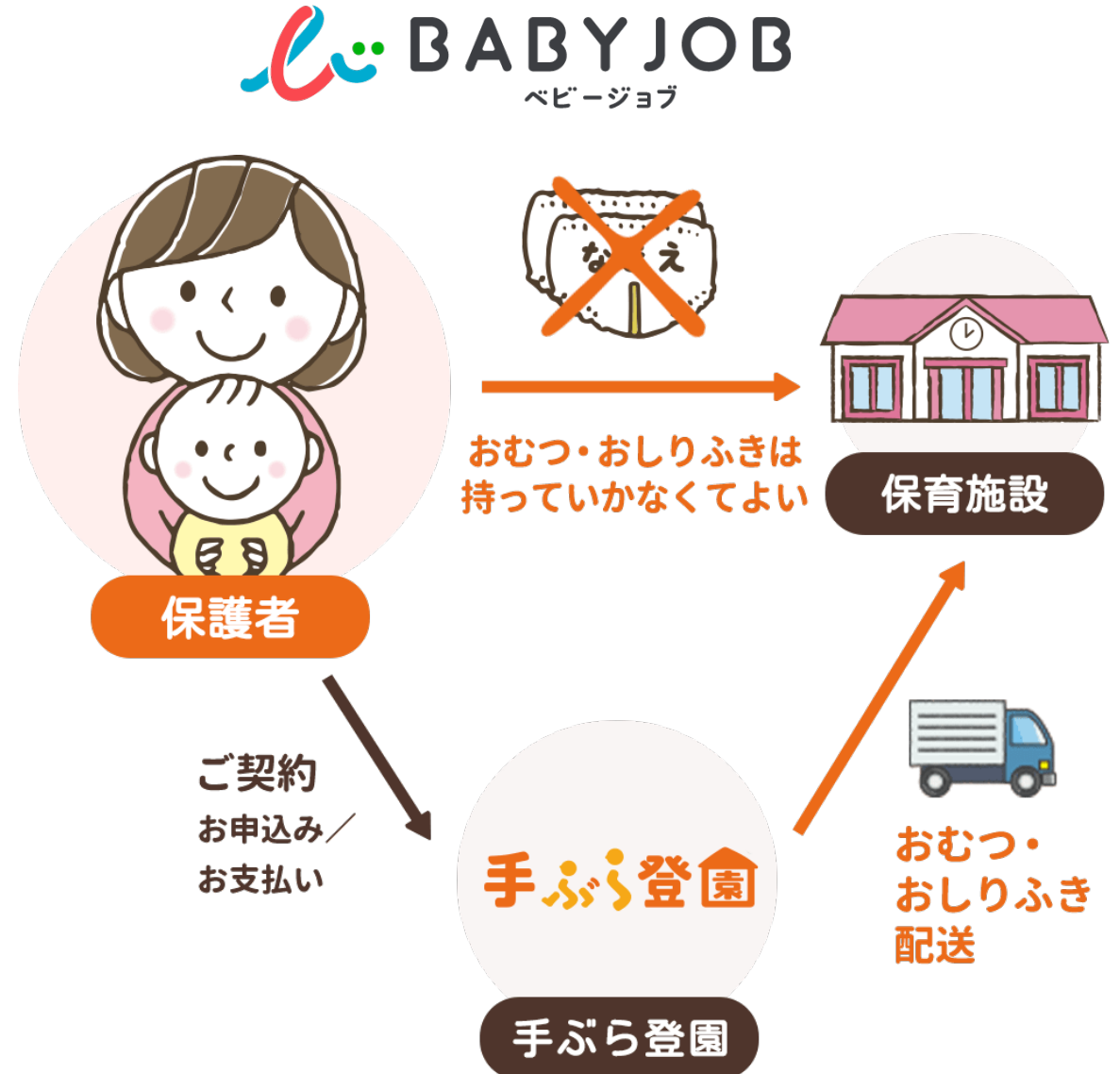
3/28開催
35人参加

- 地域の人から直接話を聞くことは熱量を感じ「刺激のシャワー」を浴びることと実感。その想いをストレートに報告したことで、地域支援の活動を応援する仲間が行内に増えた

行政とスタートアップとの連携による課題の解決事例

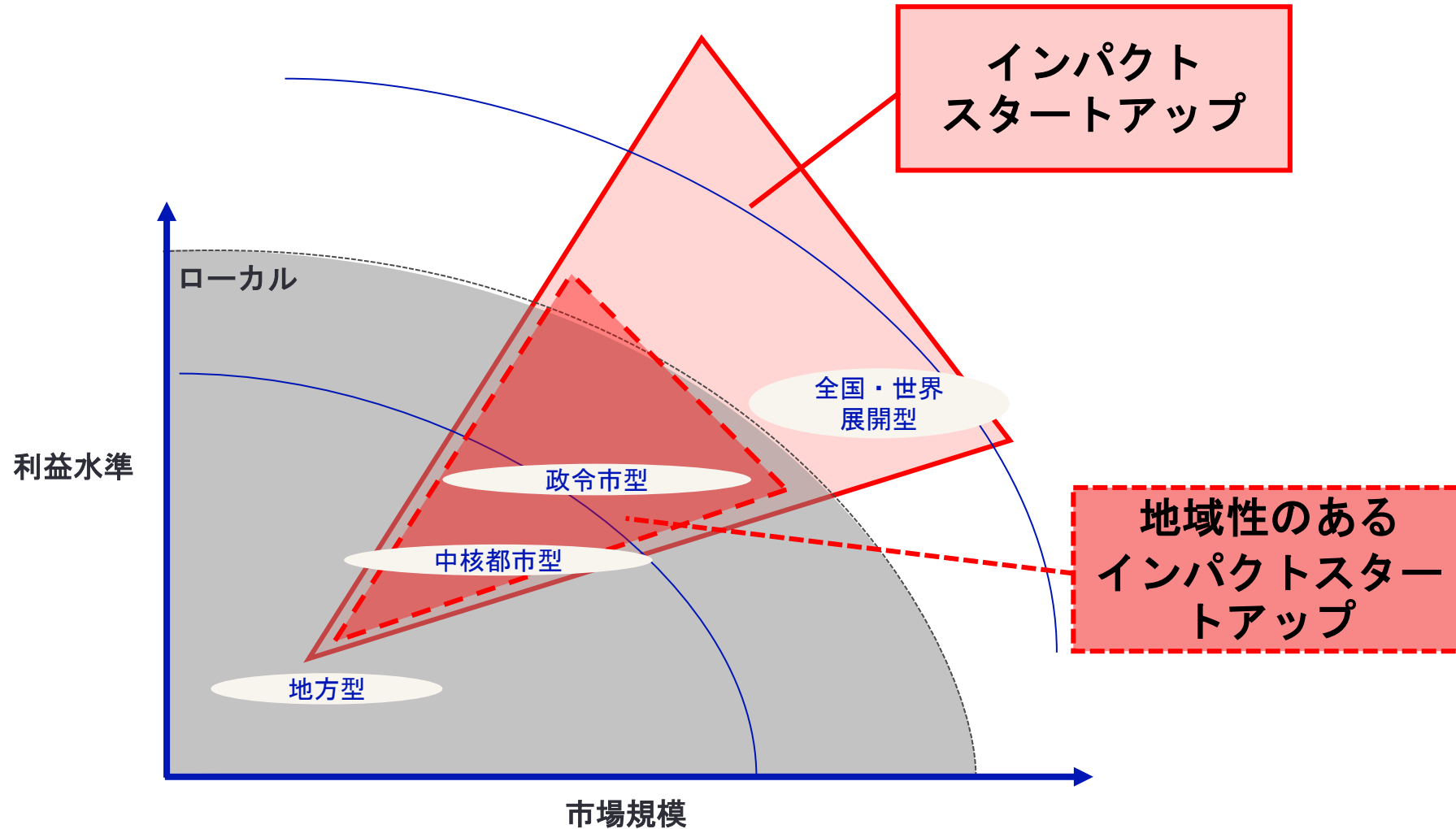
(例) 保育園向けおむつサブスクによる「保育園のおむつ持参問題」の解決

- 「保育園のおむつ持参問題」をテーマに保護者、保育園園長、市の保育課長で課題レベルで解決方法を議論。
- 保育園向けおむつのサブスク事業により、保育園へのおむつ持参問題を解決。
- 当該事業を行うスタートアップも累計6.4億円の資金調達に成功。



インパクトスタートアップとの連携と課題

- デジタル行財政改革の実現のためには、社会課題解決を目指すインパクト・スタートアップ、とりわけ、地域性のあるローカルなインパクト・スタートアップとの連携や、活躍環境整備が課題。



注) 上記の図は議論のための概念であり、個別事例に当てはめる場合には更なる検討が必要。

デジタル行財政改革 取りまとめ2024（令和6年6月18日）より抜粋

① 調達改革によるスタートアップと公共部門の連携加速

国の調達における高度かつ独自の新技術を有するスタートアップ等との随意契約の促進施策の実施、地方公共団体における、新商品の生産等により、新たな事業分野の開拓を図るスタートアップ等との随意契約等の積極的な普及など、国・地方におけるスタートアップの公共調達参入機会を拡大する等）を2024年度中に実施する。

② スタートアップとの連携

地方公共団体がそれぞれ独自に試行錯誤を行っているなど、全国的な知見共有の場が存在しない等の状況を踏まえ、国・地方オンライン実務者会議を2024年度中に設置し、社会課題に取り組むスタートアップ等と地方公共団体の連携を促進する（実務者会議において、調達に関する情報共有、中間支援団体の役割の明確化、公共部門とスタートアップ等のコミュニティ形成等について検討予定）。

③ 地域内外の関係者の新結合

全国の地域スタートアップエコシステムを充実させ、地域内外の関係者が新結合する「場作り」の支援を2024年度より実施する。

デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議 準備会合

- スタートアップとの連携について、地方公共団体がそれぞれ独自に試行錯誤を行っているなど、全国的な知見共有の場が存在しない等の状況を踏まえ、国・地方スタートアップ連携実務者会議を設置し、社会課題に取り組むスタートアップ等と地方公共団体の連携を促進する。このため、6/10に準備会合をTiBで開催。今後定期的に実務者会議を開催予定。

概要

日時 令和6年6月10日（水）14:00～16:00

場所 Tokyo Innovation Base (TiB、有楽町)&オンライン

テーマ 公共調達改革や政策目的随意契約等の活用
中間支援団体の役割と課題

出席者

国	財務省、経済産業省、内閣府（CSTI）
地方公共団体	東京都、福岡市、神戸市、札幌市、 浜松市、静岡市、山梨県、宮城県 等
中間支援団体	Urban Innovation Japan EY Strategy & Consulting EY新日本監査法人 デロイト・トーマツ デロイトベンチャーサポート リディラバ 他

全82名



国・地方スタートアップ連携実務者会議（第1回）

社会課題に取り組むスタートアップ等と地方公共団体の連携を促進を目的に、国・地方スタートアップ連携実務者会議を実施。第1回では、「スタートアップをはじめとする新技術を有する企業における公共調達の参入機会の拡大」、「自治体・地域公共インフラの維持・管理に役立つ新技術と社会実装」をテーマに議論。

概要

日時 令和6年7月10日（水）15:00～17:00

場所 4U（山梨県・甲府市）

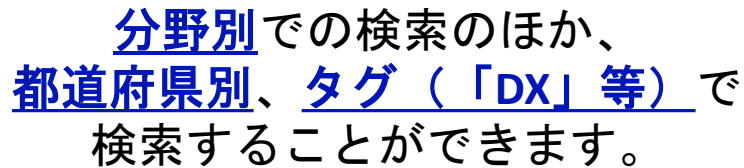
テーマ

- ・ スタートアップをはじめとする新技術を有する企業における公共調達の参入機会の拡大について
- ・ 自治体・地域公共インフラの維持・管理に役立つ新技術と社会実装について

登壇者

- ・ 直井 亮介（東京都スタートアップ・国際金融都市戦略室 イノベーション推進部 スタートアップ戦略推進担当課長）
- ・ 宇田川 徹（内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 イノベーション推進担当 企画官）
- ・ 富原 早夏（経済産業省 イノベーション・環境局 イノベーション創出新事業推進課 スタートアップ推進室長）
- ・ 首都高速道路株式会社 保全・交通部、インフラデジタル部
- ・ 梶谷 有吾（国土交通省大臣官房参事官（イノベーション）グループ 企画専門官）
- ・ 吉井 渉（東日本旅客鉄道株式会社 イノベーション戦略本部 デジタルビジネスユニット チーフ）





分野別

都道府県別

Digi田甲子圖投票結果

タグ

都道府県・市区町村名検索

検索

北海道

北海道

関東

茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川

関西

三重 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山

四国

徳島 香川 愛媛 高知

東北

青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島

中部

新潟 富山 石川 福井 山梨 長野 岐阜 静岡 愛知

中国

鳥取 島根 岡山 広島 山口

九州

福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

分野別	都道府県別	Digit甲子園投票結果	タグ
#スマホアプリ活用 #議員負担軽減 #DX #データ活用 #住民利便性向上 #安心・安全確保 #デジタルを活用した情報伝達 #生産性向上	#データ分析 #データ連携基盤 #デジタル人材 #高齢者に向けたデジタル活用支援 #地域コミュニティ機能強化 #喫煙人口削減	#新型コロナウイルス感染症対策 #スタートアップ #住民負担軽減 #公共交通ネットワーク整備 #デジタルインフラ整備 #事業者負担軽減	

すべて表示

デジ田メニューブックのご紹介②

宮城地区西部の課題解決に向けたデジタル技術の活用

宮城県仙台市

医療・介護、教育・子育て、交通・物流、生産性向上、農林水産、観光・文化・観光



実施年度 _____
Digi田甲子園 2022夏
取り組み事例キーワード _____
地域コミュニティ機能強化
関連タグ _____
#地域コミュニティ機能強化

ドローンを活用した「地産地防」の仕組みの構築

広島県神石高原町

防災



実施年度 _____
Digi田甲子園 2022夏
取り組み事例キーワード _____
ドローン活用、防災情報基盤整備
関連タグ _____
#ドローン活用

AIを活用した地域防犯パトロール活動の活性化

愛知県名古屋市

防災



実施年度 _____
Digi田甲子園 2022夏
取り組み事例キーワード _____
AI活用、スマホアプリ活用、防犯パトロール、安心・安全確保
関連タグ _____
#AI #スマホアプリ活用 #安心・安全確保

デジタルの力で将来世界で大活躍するこどもを育成支援

社会福祉法人 日の本福祉会

教育、子育て



実施年度 _____
Digi田甲子園 2022冬
主な実施地域 _____
三事県（桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、川越町、朝日町、菟野町）
取組開始年度 _____
2020年度
関連タグ _____
#デジタル人材 #子育て支援 #プログラミング教育
#スマート農業 #ICT教育 #AI #若者の地元定着
#スタートアップ #メタバース

釜石場所の趣旨

- 地域課題として、日本各地で必ずといっていいほど挙げられる人口減少。
- 釜石市においては、その原因を、「鉄鋼業の合理化・縮小、就業の場を求めた首都圏・都市部への人口流出、大学進学率の上昇、日本全体で低下する合計特殊出生率、東日本大震災による地域課題の顕在化など、複合的要因」と分析している。
- こうした人口減少の下でも、釜石市ではこれまで、岩手大学釜石キャンパスとの連携や少子化対策・子育て支援事業、官民共創によるオープンイノベーション推進事業など、様々な取組を進めてきてきた。
- 今回の釜石場所では、地域内外の方々の実践的な取組を伺いながら、デジタルを活用して、便利で豊かな未来に向けて議論をしていく。



住民・関係人口が一体で進めるローカルDX！

～ひとりひとりの「等身大のデジタル化」で、便利な暮らしを実現できる未来へ！～

座談会「輝く地域に向けた地域とデジタル、スタートアップの関係とは？」登壇者

平尾 清 様

岩手大学地域協創教育センター
特任教授



手塚 さや香 様

複業フリーランス



鹿野 順一 様

NPO法人
@リアスNPOサポートセンター
代表理事



アカデミックから公共政策、ビジネス戦略をカバーするエキスパートとして活躍。2023年から岩手大学に参画。OECD Education2030と宮沢賢治のフィロソフィーをベースに開発を進める『イーハトーブ協創コース』のデザインと運営に全力でチャレンジ中。行政やビジネスのリーダーの成長をサポートする、エグゼクティブコーチでもある。

さいたま市出身。毎日新聞の記者として盛岡支局や学芸部で取材経験を積んだ後、東日本大震災からの復興の現場で働くため、岩手県釜石市に移住。復興支援員として活動し、2021年にフリーランスとして独立。一次産業や地方移住の分野を中心に取材・執筆しているほか、キャリアコンサルティングや地域おこし協力隊の支援活動も行っている。

岩手県釜石市出身。釜石市で本業の菓子店を営む傍ら、まちづくり活動を経て、2004年に特定非営利活動法人@リアスNPOサポートセンターを設立。以降、様々なまちづくり活動を行ってきたが、2011年東日本震災により事務所を含めて被災した。現在は、その経験を踏まえて、NPO等のクラウド活用のコンサルティングや、オンラインツール活用のアドバイス・セミナーなどを手がける。

藤原 信孝 様

釜石観光ガイド会



鱒沢 紗良 様

岩手大学学内カンパニー
「+DESIGN」



釜石市出身。釜石観光ガイド会副会長、三陸ジオパーク認定ガイド。栗林町に代々続く家に生まれ、高校卒業後は新日鐵釜石製鉄所に就職。釜石での鉄の製造が終了するのに伴い、同社君津製鉄所に転属となり、家族で千葉県に転居した。定年退職した2008年に夫婦で釜石にUターンし、鉄にまつわる知識を活かして、橋野鉄鉱山インフォメーションセンターでガイドを務めるほか、山菜採りや鮎釣りなど釜石の自然を楽しむ暮らしを送っている。

2021年に岩手大学学内カンパニー「+DESIGN」を設立し、学内組織や県内企業に対してポスター、ロゴ、キャラクター制作からブランディングデザインまで幅広く提供している。大学ではプロダクトデザインやXR領域について研究しており、地域の持続可能な発展と学生のキャリアデザインを支援することをミッションとして、新たなビジネスの起業を計画中である。業界や場所の境界を越えたプロジェクトにも積極的に取り組んでいきたい。

小笠原 皐 様

高校生起業家



釜石市出身の高校1年生。2024年に起業し、母・小笠原梓とともに釜石仲見世通り商店街に「crush on たすいち」をオープン予定。オリジナルグッズや古着の販売、若者が新しいことに挑戦するきっかけになるようなレンタルスペースの運営を計画している。「釜石に何もなければいい」という思いのもと、空き店舗をDIYでリノベーションしながら、クラウドファンディングに挑戦中。

《釜石の拠点のご紹介①》co-ba kamaishi marudai

多様なチャレンジが集まる
釜石のコワーキングスペース

co-ba

KAMAISHI
MARUDAI




いつも誰かに会えて、
いつも何かが起こる、
成長し続ける場所。

利用したい方いつでも歓迎です

フリーランスの方のスタートアップオフィス、セカンドオフィスとして。
資格勉強や、動画編集・執筆・イラスト・ゲームプログラム作成などの趣味にも。

8,800円/月

24時間365日、利用し放題プラン

4,400円/月

土日祝日利用し放題プラン登場

イベント会場にも
2階は貸切利用も可能

コワーキングスペース／
シェアオフィスとは？

共同で利用できるオフィスのことです。単独で賃貸事務所を借りるより、大幅に少ない予算で利用することができます。カフェや図書館などの公共施設で仕事をするようなイメージですが、時間を気にせず利用できるのが特徴です。また、会員のコミュニティが形成され、情報交換やコミュニケーションの機会も生まれます。

POINT co-ba釜石の特徴

多様なチャレンジや交流が生まれています

釜石大観音仲見世商店街で空き店舗となっていた、お土産屋マルダイがコワーキングスペースに生まれ変わりました。起業を目指す人、県内の広いエリアで活動する個人事業主、大学の先生、フリーランスのデザイナー、ライターなど多様な会員が利用しています。貸し切りスペースでは勉強会や会員交流会、ワークショップやイベントなどが開催され、会員以外にもたくさんの人が訪れています。

FACILITY 施設の紹介

ゆっくり交流しやすい

2階フロア

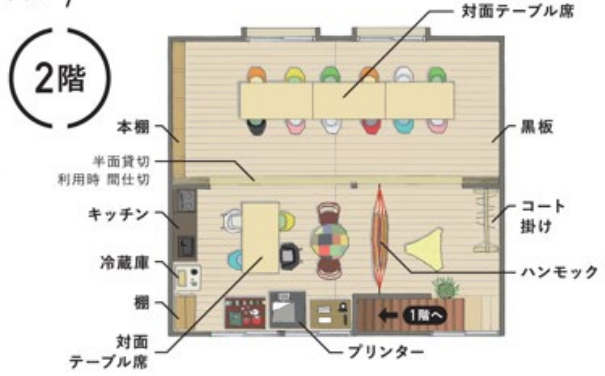


2階フロア：イベントや会議などに貸切利用ができます

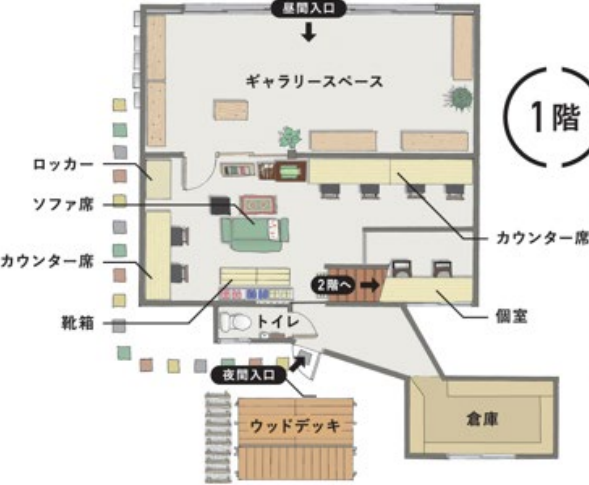
半面貸切イメージ



2階



1階



1階フロア



ウッドデッキ



個室



カウンター席：集中して作業できるスペース
個室：オンライン配信などに有効なスペース
ウッドデッキ：屋外で作業できるスペース

設備 …… ホワイトボード、黒板、本棚、プロジェクター+スクリーン、キッチン、冷蔵庫、電子レンジ、プリンター複合機、ソファ席、ハンモックなど

《釜石の拠点のご紹介②》デジタルコミュニティスペース・かだって

デジタルコミュニティスペースCadatteは、釜石みんなの家・かだத்தை拠点とし、市民にデジタル技術の必要性や利便性を啓蒙し、DX(デジタルトランスフォーメーション)に関する情報を提供する施設です。

市民がデジタル技術に触れ、学び、デジタルスキルを日常生活や仕事で活用できるようサポートすることを目的としています。



開館時間：月曜日～金曜日9:00～18:00

座席：8名程度

利用料金：無料(コワーキングスペースとしての利用は概ね2時間程度を目安とする)

